ボランティアの心

大正琴との出合い

前田仁子（福祉11期・北区会）

私は小学生の頃のある時期、日曜日に教会に遊びに行っていました（家はクリスチャンでは、ありませんでしたが）。牧師様からお聞きした話の中に、今も印象深く覚えていることがあります。〈人は、一生の内に必ず与えることと、与えてもらうことのバランスが取れているはずだから、人様のお役に立つことを何でもいいから見つけて挑戦しましょう〉というような話だったと思います。

けれども、平凡な人生を送り気づいた時には還暦を過ぎていました。そんな時、目にしたのが“再び学んで他のために”とキャッチフレーズのついたシルバーカレッジへの入学案内でした。ここに何か出来ることがあるかも知れないと思い、入学して出合ったのが大正琴でした。

音楽は得意でなかった私ですが、大正琴は楽しく、懸命に練習しました。初めてある施設にボランティアに行った時のことです。入所者から「大正琴って初めて聴いた」「一緒に歌えてすごく楽しかった」とうれしそうにお礼を言っていただき、「そうか、大正琴でもボランティアが出来るんだ」と実感しました。

卒業後、グループ“わ”に入り、各地の施設を訪問しています。演奏を聴いて懐かしさのあまり涙される方、久しぶりにこの歌をうたったと喜んで下さる方、もう一度さっきの歌を弾いてとリクエストされる方。こんな時は、演奏者のようなとても嬉しい気分…。帰宅するなり、「もっと喜んでもらえる曲はないか」と楽譜を探し出して、練習に打ち込みます。

最近は、“わ”の出前講座で小学５、６年生に演奏を教えていますが、子供たちの音感の良さ、習得の早さに驚かされ、「もっと弾きたい」「もっと難しいのを教えて」と言われると、こちらも緊張して気を引き締めざるをえません。

ほんの少しでいい、ささやかでいい、私が出来るボランティアを続けよう。そして、いつの日かに、私も〈ボランティアの心〉を喜んで、お受けしよう――つくづく思う昨今です。

＝写真は2010年夏、国際展示場で演奏

●大地震…自分の身は自分で守る

「東南海・南海地震に備えて」をテーマに、グループ〈わ〉主催のスキルアップ講座が１月18日（ジョイラックデー）に学習室１・２で開催され、70人が熱心に聴講しました。講師は神戸市危機管理室主幹・小林伸一氏。内容はムービーの中にキャラクターが登場し質疑応答形式で、地震と津波のメカニズムを学ぼうというものです。

東日本大震災から10か月が経過し、その復興は容易ならざることがわかりました。津波によって原発の安全神話が完全に崩壊し、その収束を全世界が注視し、脱原発が国民的論争になっています。また、四国ー西日本を震源とする南海・東南海巨大地震が、今後30年以内に70％の確率で発生することが予測されています。このような非常時には①自分の命は自分で守らねばならないこと、②被災者が多く、庁舎や公務員もほとんどが被災することから行政はアテにできないので各コミュニティで助け合わねばならないこと、③避難訓練や水・食料・医薬品などの備蓄がきわめて重要であること――などを各自が日頃から肝に銘じておくことが重要です。

●コーロKSCが守屋さん追悼演奏会

混声合唱団コーロKSCは2月25日、一昨年夏に亡くなった指導者・守屋幸子さんの追悼コンサートを神戸文化ホールで開催。情感豊かなハーモニーで「アヴェ・マリア」などを歌い上げ、300人の聴衆を魅了しました。守屋さんは15年間にわたってコーロKSCを指導し、屈指の合唱団に育てあげたほか、親和中・女子高、甲南女子中・高でも合唱指導を続けていました。この日は、教えを受けた合唱団や指導者がそろって友情出演。守屋さん作詞・作曲の「震災15年・心のきずな」など十数曲を熱唱しました。

同合唱団は、4月15日（日）にも神戸文化ホールで第7回定期演奏会を開催。ビバルディの宗教曲や「落葉松」「カリンカ」「青い山脈」など十数曲を披露。リストのピアノ曲で締めくくりました。